



文学研修

A

阪神コース (芦屋市谷崎潤一郎記念館・倚松庵)

たつみ都志先生のご案内で谷崎潤一郎の生涯をたどりました。

「天高く馬肥ゆ」。素晴らしい空の下、JR芦屋駅に集い、貸し切りバスで「芦屋市谷崎潤一郎記念館」へ向かいました。記念館は、谷崎の好んだ数奇屋風の邸宅を模したもので、記念館の庭園は、谷崎の京都の住処「潺湲亭（せんかんでい）」の庭を復元したものです。記念館の風情を思い思いに堪能した後、谷崎潤一郎研究者の第一人者である たつみ都志先生の講義を拝聴しました。

スライドが目まぐるしく入れ替わる、たつみ先生のパワフルでテンポの早いお話に、ぐいぐい引き込まれていきました。特に、谷崎の最初の妻・千代を佐藤春夫に譲る「妻譲渡」のお話には、一同感嘆の面持ちでした。その後、『春琴抄』（たつみ先生曰く「谷崎の最高傑作」）の特別展示を先生の解説付きで見ることができました。谷崎が松子に宛てたラブレターや関西初公開となる創作ノート「松の木影」に目を奪われました。

バスで移動した「倚松庵」は、谷崎が三番目の妻・松子と暮らし、『細雪』の舞台となった邸宅です。たつみ先生のご尽力によって、取り壊しを避けることができました。当時としては珍しい、すべての部屋に二箇所以上出入り口がある合理的な作りになっています。各部屋でのたつみ先生の解説を聞きながら、『細雪』の幸子が「こいさん、頼むわ」と話しているのが見えるような感覚になりました。

「秋の日は釣瓶落とし」。谷崎潤一郎とたつみ先生の魅力をたっぷり堪能し、それぞれの帰路につきました。

阪神コース

各分散会終了（昼食は各自）

14:00 JR 芦屋駅南口

集合・発

↓（貸し切りバスで移動）

14:15 芦屋市谷崎潤一郎記念館

・講義

・館内見学

特別展示『春琴抄』

15:00 記念館発

↓（貸し切りバスで移動）

15:30 倚松庵

・庵内見学

・たつみ先生による解説

17:00 現地解散



芦屋市谷崎潤一郎記念館



倚松庵



B

須磨・明石コース

〔須磨寺〕移情閣「孫文記念館」〔明石〕

須磨寺、移情閣、中崎公会堂を巡り、海辺の文学散歩を楽しみました。

高く青く広がった秋晴れの空の下、一行は貸し切りバスに乗ってJR三ノ宮駅を出発しました。最初に訪れたのは須磨寺です。須磨寺では「敦盛塚（首塚）」「義経腰掛の松・敦盛公首洗い池」「源平の庭」などを見学し、笛の名手であった美青年平敦盛に思いを馳せました。また、須磨寺を訪れた松尾芭蕉、良寛、与謝蕪村、正岡子規などの歌碑も見学しました。

再びバスに乗って、さらさら輝く穏やかな瀬戸内海を見ながら国道二号線を西へ走ると、明石海峡大橋が見えてきました。その橋のたもとに八角三層のモダンな洋館が建っています。中国の革命家、思想家である孫文を顕彰する施設、移情閣です。移情閣では紹介ビデオを見て、館内を見学しました。冊子にある、獅子文六『バナナ』の中に描かれている情景と比較したり、移情閣を建てた大実業家、呉錦堂の華やかな生活を想像したりしました。

最後に訪れたのは明石にある中崎公会堂です。中崎公会堂は平入唐破風の玄関を持つ和風建築の公会堂で一九一一年に建てられました。完成記念講演に夏目漱石が招かれ、「道楽と職業」という演題で講演を行いました。当時は漱石を一目見ようと、地元の名士が挨拶に列をなし、講演には収容人数二百人の大広間に千人を超す人が訪れたそうです。当時の熱狂ぶりを想像すると、心がくすぐられる気がしました。

最後はJR明石駅で解散となりました。心も体も海風に洗われるような、心地よい文学研修になりました。



須磨寺



移情閣と明石海峡大橋

須磨・明石コース

各分散会終了（昼食は各自）

14:00 JR三ノ宮駅東口

集合・発

↓（貸し切りバスで移動）

14:30 須磨寺

・概要説明

15:00 須磨寺発

↓（貸し切りバスで移動）

15:30 移情閣（孫文記念館）

・紹介ビデオ鑑賞

16:00 移情閣発

↓（貸し切りバスで移動）

16:15 中崎公会堂

・漱石とのゆかり紹介

16:45 中崎公会堂発

↓（貸し切りバスで移動）

17:00 JR明石駅解散



C 姫路コース（姫路文学館・姫路城）

播磨ゆかりの文人達の軌跡と世界文化遺産・姫路城を巡りました。

秋の穏やかな陽光が降り注ぐなか、一行はまず姫路城の西に位置する姫路文学館に到着しました。学芸員の甲斐さんから展示内容と安藤忠雄氏設計の同館についてレクチャーしていただいた後、それぞれ自由に館内を見学しました。ことばの森展示室のタッチパネルで印象的な警句を検索したり、関心のある作家の前で立ち止まり、生原稿を真剣に覗き込んだりと、思い思いのスタイルで播磨の文学を楽しみました。

文学館を出ると、今回ガイドをお願いした歴史講師の平良哲夫先生が私たちを迎えてくださり、一行はそのまま徒歩で姫路城へ行きました。平良先生による姫路城の歴史や千姫の物語に耳を傾けつつ、見頃を迎えた紅葉の小径を通り抜けお城の改札口へ到着しました。

城内では、流暢でユーモアに富む平良先生の語りで、門の造りや石垣の特徴、壁や狭間に至るまで、専門的な見地から丁寧に解説していただきました。

文学研修らしく、姫路城を詠んだ長塚節の短歌の紹介や、城にまつわるトリビアな知識に、一行は「へえ」「ほう」の連発で、気づけば周囲を、一般観光客が取り巻く盛況ぶりでした。閉城時間が迫り、残り二分前に、はあはあ言いながら百間廊下に駆け込んだ様子は、まさにここをロケ地とした映画『超高速！参勤交代』さながらの移動でした。

参加者はみな一様に笑顔で、温暖な播磨の地にふさわしい、和やかな研修となりました。

姫路コース

各分散会終了（昼食は各自）

13：45 JR 姫路駅中央出口

改札前集合・発

↓（貸し切りバスで移動）

14：00 姫路文学館

- ・資料配付
- ・文学館概要説明
- ・館内見学
- 秋の特別展
- 『司馬遼太郎展』

14：50 姫路文学館発

↓（徒歩で移動）

- ・道中見所の解説

15：15 姫路城改札口（券売所）

- ・城内見学
- ・歴史講師による解説

17：00 現地解散



姫路文学館



姫路城